

「クリシギゾウムシ」

この時期、北軽井沢では山栗がたくさん落ちます。私の山荘は「栗平」という場所にあつて、裏庭にたくさんの栗が落ちています。今年は特にたくさんありました。



「山荘の裏庭の栗産地」 山荘はボロいですが、土地だけは広く、400坪もあります。キノコ、野鳥、カエル、ホタル、山野草、山菜などが豊富です。「マイ・キャンプファイヤー・サークル」が自慢です。秋には、毎年たくさんの山栗が落ちて、それをイノシシが食べに来ます。

これをイガごと、たくさん東京に運んできました(新幹線で!)。もちろん3年生の子どもたちに観察させるためです。クリのスケッチをさせようと思ったのですが、3年生の子どもにとっては、クリではなく、クリの中にいた幼虫のほうに興味があったようです。

天然の栗は小粒のものが多くありますが、採ってきてそのまま置いておくと、いつの間にか小さな穴が開いていて、中から白い幼虫が出てきます。そのほとんどは「クリシギゾウムシ」という甲虫の幼虫です。一体どうやって中に入ったのだろうと思うと、まだ栗が小さいうちに、成虫が小さな穴を開けて、卵を産むのだそうです。それがクリ(種子)の中で孵化して成長し、終齢になった時に、殻を破って出てくるというわけです。その後、土の中で蛹になり、数年後の秋に成虫になるそうです。私の観察では、野生のクリは半分以上が、この虫にやられているようです。実は栽培の栗にも卵は産みつけられることがあるのだそうですが、農薬で孵化しないのだそうです。



「クリシギゾウムシ（栗蝨象虫）の終齢幼虫」

体長 10～15mm 程度。クリの殻に穴を開けて、自分で出てきます。ずんぐりした体と、ユーモラスな動きで、子どもたちに大人気です。

クリは一人にイガ 1 個を配りました。イガ付きのクリを初めて見る子も多く、興味津々な様子でした。しかし、半分ぐらいのクリにこの幼虫がいました。私は、子どもたちは気持ち悪がって、クリを放棄すると思ったのですが、反応は意外でした。

「小さいイモムシがいる！かわいい！」

「イモムシじゃん！歩いてる！かわいい！」

「え——！見せて見せて、私もほしいんだけど！」

「わあ、手の上で動いてる。かわいい！くすぐりたい！」

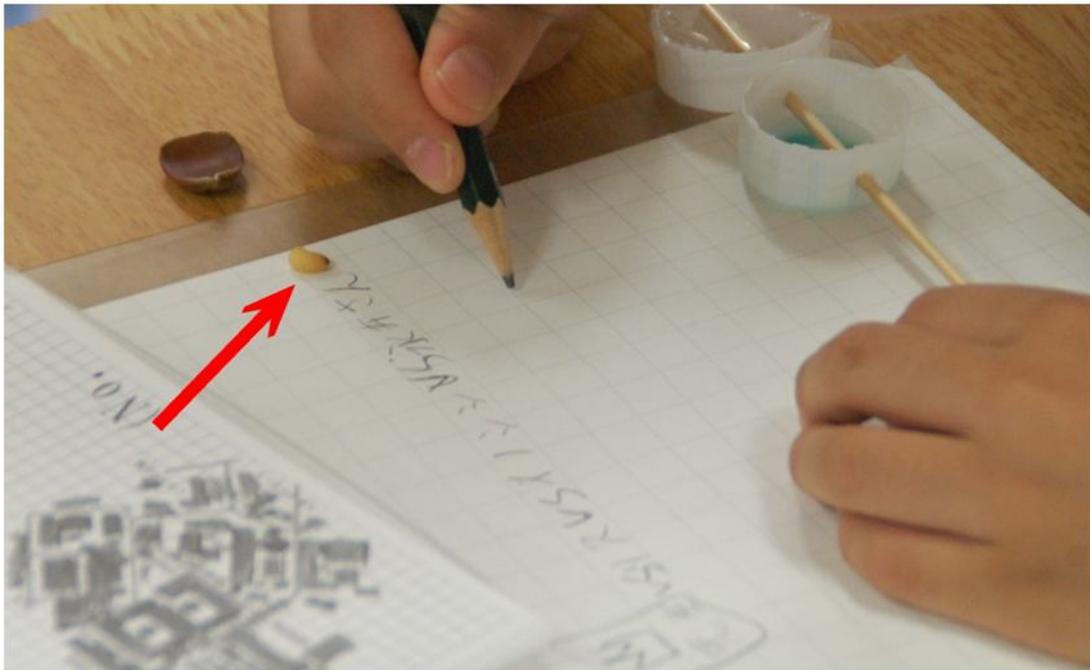
もうこの調子で、あまったクリの容器の中から、幼虫を探し出そうと、争奪戦の大騒ぎになってしまいました。





「ゾウムシをさがせ！」

キャーキャー、あーだこーだ、どけどけ、見せて見せて、それはもう大騒ぎでした。



「熱心に幼虫を観察」

熱心にクンを観察しているのかと思ったら、観察していたのは幼虫のほうでした。ノートの上を這いまわる様子が面白くて仕方がないのです。写真の幼虫の左上に写っている、平べったくて曲がっている「三日月栗」も人気でした。

幼虫をうまくゲットして、「所有権」が確定すると、子どもたちは持って帰る方法を考えます。誰かが、コンパスのケースが最適なことに気づきました。そういう知恵は、すぐに学級全体に伝わります。そうすると、コンパスはどうしてもよくなって、床にたくさん落ちています。コンパスよりも幼虫のほうの方が大切なのです。ケースが透明なので、よく観察できるので、子どもたちはゴキゲンでした。



「コンパス飼育ケース」のアイデア

【子どもの観察カードから】

- ・「くりにあながあいていて、中からよう虫が出てきました。小さくてかわいいです。」
- ・「ゾウムシのヨウチュウをかんさつしました。さわると丸くなります。」
- ・「わたしは、ゾウムシのよう虫を3ひき見つけました。においをかいだら、クリのいおいがしました。きっと、クリしか食べていないからだと思います。」
- ・「あなのあいたクリのかわをむいてみたら、中にもう2ひき、よう虫がいて、びっくりしました。クリを食べながら、すむ場所を大きくしているのだと思います。」
- ・「どうやって、クリの実にタマゴをうむのか、とてもふしぎです。」

クリのにおいがするというのは本当で、長野県では、何とこの虫を炒って食用にするそうです。栗の味がして相当おいしいそうです。・・・が、私はちょっと、ノー・サンキューです・・・。

(お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋)